

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892600073		
法人名	医療法人社団 有朋会		
事業所名	グループホームクリクリ ユニット名(クリクリ)		
所在地	茨城県那珂市豊喰 140-17		
自己評価作成日	令和4年4月23日	評価結果市町村受理日	令和4年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892600073-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・まず、同一建物内に小規模多機能ホーム(在宅)が併設されています。グループホームだけでなく、在宅生活をされている方とも交流が図れる環境が整っています。そして、グループホームと小規模多機能ホームとの間には大きなウッドデッキを設けています。デッキからはスロープや階段もあり歩いて中庭に出る事も可能です。デッキや中庭では、天気の良い日に体操やボール遊び、時には合唱したりしています。菜園もありますので土いじりも出来ます。現在は外出や外食は出来ませんが、1日の中で必ず歩く機会を設けて

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は交通量の多い国道に面しているが、自然豊かで、木々や作物の変化を通じて、四季を感じられる場所に立地している。利用者の自立支援として、コロナ禍であるが、敷地内の散歩や事業所内での歩行で体を動かすことに、配慮している。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と広いウッドデッキ等で交流する機会を設けている。事業所はオンライン研修を採用し、職員が短時間で受講する機会を設け、介護技術向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に理念の唱和をしています。また、共有スペース内にグループホーム理念も掲げて、これも唱和しています。	法人の理念を大切にしながら事業所の理念を全職員が関わり作成している。家庭的な雰囲気意識し、馴染みの関係づくりや楽しい場作りを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍にあり、地域のイベントの実施もなく地域と繋がりが持てない。	地域の行事(藤の花の祭り)には地域住民と一緒に事前の打ち合わせからテントの設営など場作りを共同で行う等している。これまでの長い法人・ホーム・地域との関わりであり、コロナが収まった後には再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績は積み上げているが、地域に向けての支援が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議自体が、数年開催出来ていない。話し合いの場をどのようにすれば良いか？模索中である。	広報誌の送付時に独自の様式を使用して意見の汲み取りを行っている。現在は書面のみとなっているが、対面での開催時には質問等も多く、地域との関係が深まるような取り組みとなっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは日頃から密に連絡を取り合っている。地域密着型サービスの会議もオンラインと言う形で開催している。	オンラインで地域包括支援センターの会合などにも出席して情報を得たり、直接電話で話をする等常に市の担当者とは関わりを持ち良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠ははもちろん、それ以外でも身体拘束は行わない。入居者様の様々な要望に対して、なるべく思いに寄り添い、その思い通りになる様にしてサービスに取り組んでいます。身体拘束廃止委員会も設置しています。	身体拘束排除のための指針を作成し、委員会を毎月行うほか、日々の支援のなかで疑問が生じた場合やメディア等で取り上げられた場合などには、その都度話し合い、申し送り時や、会議の場、で注意喚起を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り時や会議の場、日常においても日々の会話の中において、メディア等で取り上げた内容の話もして、お互いの意識向上に努めるとともにあってはならない事なので日々防止する事に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議の中で話をし、学ぶ場を設けています。職員にも個々の必要性を感じてもらえるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、かならずキーパーソンの方に来設していただき、契約書及び重要事項を用いて、ご納得頂けるように十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱はもちろん、苦情要望受付窓口と第三者機関の窓口を明記してある事を説明するとともに、常日頃から面会時にはお話しする機会を設けて情報交換をして反映させています。	利用者からは日々の支援のなかから、職員は面会時に家族等と話し合う機会を通じて、意見や要望を引き上げている。職員で話し合い、出来るものについてはすぐ対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議はもちろん、日常の業務の中においても、都度話あえる機会を持ち、職員からの意見を反映できるようにしている。	人事考課を実施しており、職員とは年3回直接話し合う機会を設けている。職員からの気付きやアイデアで、現在外出に制限がある事から、ホームでのイベントを多く取り入れる事にした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握して、残業等がないように環境を整えている。向上心が持てるように、各個人の長所を伸ばせるように声掛けをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては、オンラインにて短時間での研修に取り組んでいる。管理者が状況を把握している。月に1回は、オンラインにて外部講師との事例を用いてケアの在り方の見直しを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍にあり交流自体出来ないが、電話やズームを用いて意見交換や不明な点等の確認を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	かならず事前調査を行い、そこで情報を収集している。アセスメント表を用いて、本人様からのニーズを的確に捉えて安心できるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に、ご家族様からも不安や要望に傾聴して、その不安を取り除けるように関係づくりに努めています。入居後も関係性づくりには力を入れて利用料金の支払い時には話し合いができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回ケアプラン作成時に、ご本人様及びご家族様のニーズを捉えて、長期・短期と目標を掲げて落とし込んでいくようにしている。必要と判断すれば、他サービス利用も含めて考えていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で洗濯たたみやテーブル拭き、お盆拭きなどお手伝いしていただき、自宅にいた時と変わらない生活の支援を心掛けている。室内でのイベントには入居者様の意見を反映させて、なるべく希望の沿える様に対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況を常に把握するようにしている。毎月利用料の支払い時は、話し合いの場を持ちご本様をの近況報告をして共に支えていけるように関係を築いています。来設時には必ず短時間でも話しが出来るように職員全員で心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍にあり難しい状況にある。以前は、外出及び外泊も積極的に行っていた。現在も出来る範囲の中で支援に努めている。	馴染みの人との年賀状でのやり取り、電話での話しなどを支援している。自宅への外泊を毎週行っていた利用者もいたが、現在はコロナ禍の為途絶えている。終息後は再開予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通じて入居者様同士の交流を図っている。仲の良い入居者様は同席にし、楽しい交流ができるよう働きかけ・声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居された場合には出来る範囲でお見舞いに行きつつも、電話等で連絡を入れて状況確認をしている。他施設への転居の際には転居終了まで相談・支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様より希望を聞き、全職員が把握できるよう努めている。困難な方へは、より良いケアが提供できるよう会議の際に意見を出し合い、それを日々の生活に反映できるよう対応している。	日々の支援の中での会話を通じて、意見や要望を話せるように配慮している。得られた情報はタブレット端末に記載し、情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査時の情報から生活歴や暮らし方、生活環境を考慮してサービスに反映している。また馴染みの生活に少しでも近づけるよう、家具や備品を居室内に持ち込んでいただくなどして対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の心身の状態や生活状況を全職員が共有できるよう、データシステムの活用、口頭での申し送りを実施している。少しでも変化が見られた際にはその都度申し送りをして、対応の統一を図っている。記録が電子化したので情報は全部載せる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からの意見・要望をもとに、より良く暮らせるよう介護計画を作成している。定期的に本人様の状況やご家族様の意見を基にモニタリング・ケアカンファレンスを実施している。	計画作成担当者は日々の記録の中から常にモニタリングをし、半年に1回職員と一緒にやっている。各利用者の状態に応じて、利用者や家族の希望を取り入れ、日々の暮らしに反映できる丁寧な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況変化等は、経過記録に残しかつ、電子化した事により情報共有もスムーズとなった。出勤時にはかならず目を通してから業務にあたる様に情報共有をして、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにはなるべく対応できるように取り組んでいます。コロナ禍にある今、事業所としても多機能的に変化しなければならない。どのようにしていくか模索中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域において資源が少ないのが現状の上に、コロナ禍にあり少ない資源も開催していない現状にある。今できる何かを模索しつつ、以前の様になればまた参加していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明を行い、承諾を得ている。法人内の医療機関に関しては、職員同行して受診しています。それ以外の医療機関に関しても必要に応じて職員同行して関係性を築けるように支援しています。	これまでのかかりつけ医への受診を積極的に支援している。基本的には家族の付き添いになっているが、職員が付き添い、同行する事もある。家族付き添いでのかかりつけ医への受診の際はホームから医師に宛てた手紙を持参してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな体調の変化に気づけるよう日々見守りを徹底し、異変を感じたときはすぐに看護職員に相談するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院機関に情報を流し、本人の状態を把握した上で入居者が安心して治療を受けられるよう支援している。またこまめに面会に行くことで入居者の状況を医師や看護師と情報交換し、早期に退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた方針は説明させてもらっています。しかし、現段階ではまだ対象となる方も居ないのが現状です。今後は、事業所として重度化や終末期に向けた研修に参加して、チームで支援できるように取り組んでいきたいと思います。	重度化や看取りに関して契約時に説明し、同意を得ている。重度化や看取りの介護が必要になった場合には医師や看護師の指導を受けながら個々の状態に応じた対応・研修を実施することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の状態によりその都度必要な急変時の対応方法を看護師に教わるようにしている。全職員が急変時の対応が安全に落ち着いて出来るようにしていきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施し職員も避難できる方法を身に付けている。地域の方とは、コロナ禍にあり連携は取れていないが、いざと言う時は依頼する。その他、県からの要請もあり訓練を行い参加した。	夜間想定を含む避難訓練を定期的に行っている。訓練後は反省会を行っているが次回に向けた課題を目標化するまでには至っていない。民生委員等の参加を得て実施している。	地震想定避難訓練の実施と得られた課題を次回の目標とする避難訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりの人格を尊重し、入居者様の個性を理解した上で適切な言葉掛けができるような対応を意識している。また情報の守秘義務についても十分理解し、入居者様の書類は事務所内及びフロア内の所定の場所に保管しています。	利用者の尊厳に配慮しつつも、それぞれの個性に合わせた言葉遣いに努めている。管理者は言葉遣いについて、注意喚起を行っている。年1回内部研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者様が理解できるような説明をして意思確認を行いながら支援している。自己決定をしていただけるような声掛けを実施し、入居者本位の希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしてある程度の流れはあるが、職員側の都合ではなく、入居者様一人に合わせて無理強いする事なく、あくまで入居者様優先で日々のサービスを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍にあり、行きつけの美容室にいったりする事ができないので、日常生活の中において常におしゃれが出来るように服装や髪形等をに気を遣い支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けについては、無理なく行えるよう、個人の状態に合わせて実施しています。入居者様の希望に沿って、イベントではテイクアウトをしたり、ホーム内では一緒に食事を作って楽しめるように支援しています。	献立は法人本部の管理栄養士が作成している。ごはんや味噌汁はホームで毎食作り、朝食はホームで作っている。利用者は食事作りの手伝いや誕生日のケーキのデコレーションを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量チェック表を常に確認しており、不足している利用者には摂取していただけるような飲み物を提供し、促している。食事も一人ひとりの状態に応じて常食や一口大、刻み食、ミキサー食で対応し、十分に栄養摂取ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきをしていただくよう促している。本人の状態にあった口腔ケアができるよう、見守り・声掛け・介助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の水分量であったり、活動量等を把握し各自の排泄パターンも把握する事により、減薬であったりオムツを外したりする事が出来るように支援しています。	水分の摂取量や排泄パターンを把握することにより、排泄支援を行い、夜間の安眠やおむつ外しなどに取り組んでいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯は麦飯を使したり、おやつや食事時にもヨーグルトや牛乳を提供。個別に飲み物にもオリゴ糖使用したりし工夫してなるべく多く水分等を摂取できるようにして、予防に取り組んでいます。その他、ファイバーも全員ではありませんが利用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番や入浴日等は、その時の状況に応じて対応している。入浴剤や癒しの音楽を使用することで、リラックスしていただくと共に色や香りを楽しんでいただけるように工夫している。	一日おきの入浴ではあるが、利用者の意向にそって何時でも入浴できるようにしている。入浴を拒む利用者に対しては無理強いせず、シャワー浴や足浴、中止にするなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコン等を使用して寝やすい環境を整えています。布団を温めておくなど安眠に繋げられるような対応を実施している。また不眠・不安などを訴えられた際には、ゆっくりと話を傾聴し安心して休んでいただけるよう声掛け・対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の誤薬についてはチェック表を作成し、日付・数の確認を2人でチェックしている。薬の目的や副作用は薬剤情報で理解している、また薬の変更は、申し送りのノートへ記入で職員全員が分かるように努めている。基本的には減薬に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人の趣味や嗜好を活かせるような環境作りを行い、他者との交流にも繋げられるような支援している。外出が好きな方が多いので、ドライブや買い物など外出の機会を設け、定期的実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍にあり、思うように希望に沿って外出する事は難しい状態。出来る範囲の中で対応しています。	天気の良い日には広い敷地内を自由に散歩している。広いウッドデッキでは何時でも外気浴ができる。コロナ禍以前は月1回は外食のための外出を楽しんでいた、今後も続けたいと思っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に職員が行っている。ご家族様からお小遣いを頂いているので、入居者様が購入を希望する物品はできるだけ本人を連れて買物に出掛け、自分で選びお金を使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた際はなるべく本人に繋ぎ、ゆっくりと会話を楽しめるような環境作りをしている。かける際には職員が繋ぎ役を行い、間違った所に電話をかけることが無いよう対応している。郵便物は本人にお渡しし、希望があれば手紙を読んでいます。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい環境づくりのために、壁にはイベント等の写真をなるべくタイムラグが無い様に掲示したり、中庭には季節の花や野菜と一緒に植えたりして生活感や季節感を感じてもらえるように工夫しています。	日常的に外気浴や外でのお茶などが楽しめる広いウッドデッキは開放的な気分させている。台所は居間に面しており、利用者も一緒に食事作りが気軽にできる家庭的な雰囲気になっている。壁面の写真や飾り物は利用者の日々の暮らしが訪問者にも伝わるように工夫されている。気の合った同士が会話を楽しめるよう座席を配置したり、一隅にはソファを置いて寛げる場もある。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士はテーブル席を同じ場所にし、交流が楽しめるような配置にしている。独りになりたい場合は他者の視線が気にならないソファ席に誘導し、ゆっくりと過ごしていただけるよう対応をしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使い慣れた、タンスや椅子などを持ち込んで頂き自宅と変わらない様な空間作りをしています。そして、本人様やご家族様と相談しながら居室内に花を置いたり、写真やカレンダーを飾ったりしています。	各居室には洗面台が備えてあり、自立度の高い利用者は居室で身だしなみを整える事ができ、より自立した暮らしができるような造りになっている。ソファなどを配置し、家族や自分の気に入った写真などを飾って利用者がそれぞれ个性的に暮らせるよう工夫されている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の至るところに手すりが設置されており、かつバリアフリーになっているので安全に移動ができるような作りとなっている。また出来るだけ残存機能を活かせる設計になっている。トイレには目印、浴室の側には暖簾が設置してあり、一目で何の場所か分かるようになっている。	

(別紙4(2))

目標達成計画

所名:グループホームクリクリ

作成日 令和4年6月29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練等を行っている。その中で出た課題があるが、次の訓練の際に課題が活かされていない。地震想定訓練が出来ていない。	上がった課題に対しての振り返りを行う。	地震想定避難訓練の実施、課題を重要視した訓練を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。